

2014年5月21日

スリット砂防ダム・第2大久保沢堰堤見学会参加報告書



昨年10月16日に伊豆大島が台風26号の影響で、大きな土砂災害に襲われたことはまだ記憶に新しいと思います。このように、我が国では毎年平均1,184件もの土砂災害が発生しています。

この災害から町を守るために、沢等に整備されるダム状の構造物が砂防ダムですが、近年では水を溜めるダムと区別するために砂防堰堤(さぼうえんてい)と称しています。従来の不透過型堰堤には、堆積した土砂による流下土砂の堰き止め効果の低下や土砂に混じる植物等の腐食による悪臭の問題等がありました。更に溪流の連続性が遮断されるため、水生生物の生態系に悪影響を及ぼすことが指摘されていました。

これらの問題に対応し、近年、堰堤に切り込み(スリット)を設けて、通常は水や土砂を流し、大雨により土石流が発生した時には流下する大石や流木を補足して不透過型堰堤となって機能するスリット型がもっぱら造られています。また、スリットも当初はコンクリート製でしたが、現在では鋼管を使用したタイプが施工されています。

私達は、このスリットタイプの現状を実際に視察し、認識と理解を深めるため、神奈川県に見学を依頼し、今回の堰堤見学会が実現いたしました。

快晴に恵まれた5月16日、協議会のメンバー11名はJR海老名駅近くに集合し、マイクロバスにて相模川右岸を上流に向かいました。相模川の水は青く豊かに流れ、中流域の川岸では多くの人達が様々に川を楽しんでいました。私は日常、下流域を見ているので、美しい礫河原がとても新鮮に見え、羨ましく思いました。小倉橋、城山ダム、津久井湖を経て甲州街道沿いの宿場本陣に関する資料等を展示している小原の郷に到着。ここで、県土整備局と厚木土木事務所の方々4名と落ち合い、杉木立の中にある山道を約15分程登って第2大久保堰堤に向かいました。到着後、堰堤を見ながら、土木事務所の担当者に分かり易い詳細な説明を受け、約1時間、活発な意見交換を行い、スリット式堰堤について、幅広く理解を深めることができました。

この堰堤は、100年に1回発生する可能性がある土砂災害を想定し、平成22年に竣工いたしました。幸い、今日まで土砂災害に見舞われていないとのことでした。周辺の森林は、住民の高齢化や過疎化の影響で手入れが行き届かないことから、多くの倒木が目立ち、大雨が降った時にはこれらの倒木が大きな災害の原因になりかねないことが懸念されました。

小原の郷で昼食後、江戸時代からの建屋、生活用品や養蚕備品等が保存、展示されている「小原の宿本陣」を訪れ、当時の様子に思いを馳せることができました。

この企画を運営して下さった相模地域協議会代表の岡田さん、並びに丁寧にご説明頂いた県土整備局と厚木土木事務所の皆様に感謝申し上げます。

桂川・相模川流域協議会
相模川湘南地域協議会
浜辺謙吉